

第57回

酒田の歴史と民俗資料



透かし彫り鶏籠置物

開催期間 1989年12月12日(火)～1990年2月18日(日)

開館時間 9時～16時30分

休館日 月曜日・年末年始(12/29～1/3)

入館料 大人 100円 児童・生徒 50円

酒田市立資料館

酒田市一番町8-16 TEL (0234) 24-6544

開催にあたって

当資料館は開設以来満11年を経過しました。この間、皆様から数多くの貴重な資料を寄贈あるいは寄託いただき、ありがたく厚くお礼を申し上げます。

今回はこれらの資料と合わせて、購入した最近の諸資料の一部を公開展示します。展示に当たっては、努めてわが町の歴史・民俗等が概観できるように構成してみました。

また、1階には収蔵する書画を主として展示しました。今後皆様の一層の御理解と御協力によって、「郷土の誇れる資料館」として共有できるようにと願っています。

歴史関係資料

〈縄文～古代〉

飛鳥遺跡出土品	石器・土器・古鏡・古銭	21点
黒森遺跡出土品	矢じり・石器・土器	19点
蕨手刀	市指定文化財(写真)	1口



蕨手刀

史跡城輪柵	角材・柱根・井戸枠・瓦・土器	40点
説明図／史跡城輪柵Ⅱ期復元図、ほか		4点
写真／城輪柵跡、ほか		9葉

〈中世〉

甲冑・鞍・鏡	進藤但馬守安清	1具
〔市指定文化財・寄託・生石八幡神社〕		
△鞆日の丸紋二枚胴具足	池田讃岐守盛周	1具
△武藤義氏寄進状	天正4年	1通
△川村彦左衛門寄進状	天正18年	1通
△最上義光寄進状	慶長17年	1通
紺糸威最上胴丸	荘内藩印抱き角	1具
鎧笈	荘内松山藩・隅入平角片喰紋	1架
擬宝珠	亀ヶ崎城大手橋・万治3年	2基
写真／徳尼公、ほか		1葉



革包日の丸二枚胴具足

池田讃岐守盛周

〈近世～近代〉

——北前船がもたらした日本海文化——

北前船模型	1/20	1点	
船絵馬	複製	志満屋治兵衛	1点
六反帆	帆柱つき		1張
羅針盤			1個
小鵜飼船			2点
船用火鉢			1個
蠟燭屋看板			1架
鳩杖			1杖
魔斬り	二代目	吉包作	1組
肴屋株札	文化8年		1点
出船手形			2通
鶏龍山蘭文絵皿			1枚
伊万里焼			8枚
九谷焼			4枚
説明図			／
華ひらく日本海文化—酒田節・庄内美人・酒田の方言ほか			3点
写真			／
本間光丘・河村瑞賢・高田屋嘉兵衛ほか			8葉

庄内藩御貸金方御用筆筒(本間光丘墨書)		1 棹
懸 硯(船筆筒)		1 棹
帳 筆 筒		1 棹
墨漆塗衣裳筆筒		1 棹
<民芸品と郷土人形ほか>		
鳥海山模型・市指定文化財	宝永元年	1 基
出羽庄内酒田風景	五雲亭貞秀	1 枚
盲 経 庄内松山山寺駅	指月板	1 張
貯 水 器	幕府軍艦長崎丸遺品	1 点
砂 時 計	幕府軍艦長崎丸遺品	2 点
指 樽・民芸品、ほか		8 点
コロバンドリ・セナカアテ		各 1 点
木馬・木犬(郷土玩具)		各 1 点
酒田風		3 点
鶴渡川原・広田人形		47 点
酒田祭行列紙人形	高橋けい子作	1 組



鳥海山模型

●目で見える酒田・港を中心として 一明治・大正・昭和一

羽州鮑海郡酒田湊 (江戸期)	鶴亀松宝見立 (天保2年)
鶴亀松宝見立 (文政12年)	飛島湾停泊船 (明治末)
千石船型准胝観音 (天正寺)	千石船の錨 (皇太神社境内)
酒田港水戸口風景 (明治末)	江戸時代の面影残す港(明治)
海向寺より街並みを見る(明治)	宮野浦渡し場 (明治中期)
米港酒田の面影 (明治中期)	台町 (明治後期)
大正初期の酒田港	冬の宮野浦灯台 (明治末)
船場町通り (明治)	度津丸と渡し船 (明治末期)
山居倉庫女性丁持(昭和初期)	旧両羽橋 (明治後期)
鍛冶町 (大正中期)	山居風景 (大正)
最上川筵帆船	

訂正・誤→正 【* 帆柱つき→帆柱つき * 料堂馬→料堂馬
 * 鞆日の丸紋二枚割具足→鞆包日の丸二枚割具足
 * 墨漆塗衣裳筆筒 →黒漆塗衣裳筆筒】



透かし彫り鶏籠置物(木彫)
 獅子頭(木彫)
 飾棚
 磯草塗飾小棚
 懸硯
 光丘彫
 酒田張り煙管製作道具

後藤 三惣作
 藤井 栄一作
 初代 斎藤 如齋作
 斎藤八惣八作
 佐々木武志作
 9点
 1組

民俗資料



ケンダン(大宮)

ケンダン
 一大宮・遊摺部・落野目一 3点
 虫おくり船 広野 1組
 料 霊 馬 5点
 てんのうさま祭り
 遊摺部 1組
 福 俵 3俵
 アンシ 厚 司 1点



郷土玩具 木馬・木犬



「屏風四季農耕絵図」 円 潭

〈書画〉

友誼に題す	書	孟 憲 江
山 水	絵	希 白
屏風四季農耕絵図	絵	市 原 円 潭
志村伊豆守光安追懷碑	書 選文	岡千仞・須 田 古 龍
孔 子	絵	佐 藤 梅 宇
箴 言	書	伊 藤 鳳 山



田園冬景色 蓼一郎

鍾 嶺	絵	筒 井 雲 泉
文珠菩薩	絵	市 原 円 潭
司馬温公家訓	書	王 藩 清
残 陽	書・絵	長 三 洲
山影漁舟図	絵	加 藤 雪 窓
箴 言	書	加 藤 雪 窓
猊鼻溪に遊ぶ	書	須 田 古 龍
田園冬景色	絵	佐 藤 蓼 一 郎
山 水	絵	馨 泉
雪路乃夜	絵	香 昇
酒田市立資料館	書	土 門 拳

表 紙 絵 解 説

作者・後藤三惣(名は政乗)木彫刻家[享和2年(1802)～安政2年(1855)]
【鶏籠製作の逸話】 酒田市新堀出身(平成元年度購入品)
 天保の末、荘内藩より選ばれて日光東照宮修理に派遣される。従事すること8年、この間に自作の彫り物と取替えたかどで投獄となる。獄中特別の許しを得て造ったといわれる傑作がこの鶏籠である。実に見事な透かし彫りで、出来上がってみたら籠の中に雌鶏1羽とひよこ2羽が入っていたという(1木造)。この1件で許されて庄内に帰されたと云われている。通称「揚屋作」(アガリヤノサク)という。